

おわりに

簡易無線は、無線従事者の選任が不要で簡易な手続きで利用でき、現在は全国で約 68 万局が使用されていますが、通信チャンネルが多く、従来の音声に加えデータ通信も可能なデジタル方式が登場したことから、今後、データ系通信分野への拡大により利用者がますます増えると想定されています。

本調査検討会では、データ伝送に関わるニーズ・性能・能力の検証や、周波数の効率的な利用方策等について検討を進め、特に、環境・エコロジー分野での利用を想定し、エコタウンモデルを念頭に置いたフィールド試験や各種検証を実施するとともに、データ伝送の利用拡大に係る諸課題の検証と方策を提言することにより、デジタル簡易無線の普及促進を図ることを目的として実施してきました。

その結果は、デジタル簡易無線のデータ伝送の活用が十分可能であると確認できたことが最大の成果だったと思っておりますし、今後の発展に大きな期待が寄せられるのではないかと考えています。

デジタル方式の簡易無線は、その制度化に併せて、従来どおり免許を受けて利用するものに加えて、免許を受けずに登録することによって利用できるものができたほか、従来、陸上を中心に利用されてきましたが、新たにグライダーなどの上空での利用も可能となりました。

こうした利用手続きの簡素化や利用可能範囲の拡大によって、デジタル簡易無線の普及は、より一層進むものと確信しており、その利便性や多様性をさらに高めて行くことが重要であると考えております。

今後、本調査検討会の報告が、さらなるデジタル簡易無線の高度利用と普及により、広く国民のみなさまの生活に関して役立つものとなれば幸いです。

最後になりますが、昨年 5 月から本年 3 月までの間に 4 回にわたり開催した本検討会並びに 2 つの作業部会において、熱心な論議と貴重なご意見をいただいた構成員のみなさま、通信試験において多大なご協力をいただいた関係する方々に、この場を借りて深く感謝いたします。

デジタル簡易無線のデータ伝送における周波数の有効利用に資するための調査検討会
事務局